

学際的論文を通すには

情報システムグループ主査

笹嶋宗彦(大阪大学)

対象とする学際的論文

- 専門領域 × 情報学
 - － 医療情報学
 - － 環境情報学
 - － 図書館情報学
 - － 法情報学
 - － 経営情報学
 - － 農業情報学
 - － 観光情報学
 - － …

編集委員会(月1回)で審査される論文

- 体制: 査読者2名, メタ査読者1名
- 査読者全員が採録(不採録)と最終判定した論文
 - 判定に問題が無いか?
- 査読者の判定が割れた論文(問題論文)
 - 3人のうち誰かが異なった判定をした論文
 - 判定の取りまとめ方は適切か?

問題論文が生まれるまで

- 査読者2名のよくある割り当てかた
 - 領域から1名, 情報工学から1名
 - 【重要】両方を十分に知っている査読者に読んでもらえるとは限らない(むしろそのようなケースは少ない)
- よく上がってくる報告書の内容
 - 領域査読者: ○○の分野ではこのような技術の適用例は見たことがありません. が, 情報工学技術としての新規性は**判断いたしかねます**.
 - 情報査読者: 技術的には既知の××と同じで新規性はありません. 有効性については, ○○の分野を知らないので, **判断いたしかねます**.

境界論文やるべし集(素案)1/2

- 素案につき, ご意見歓迎いたします:-)
- 勝負する立場を明示すべし
 - 専門領域での有用性で勝負するのか? 情報工学として新規技術を提案するのか?
 - どちらかがきちんと示されれば採録
- 問題を明示すべし
 - なぜ解決しないといけないのか?
 - 到達すべき点はどこか?
- 評価軸を明示すべし
 - どのような物差しでどのように測って欲しいのか

境界論文やるべし集(素案)2/2

- 専門領域と情報工学の両方に気を配るべし
 - ○○領域の査読者に向けて, 情報工学的見地から新規性, 有用性を説明すべし. 逆も同様.
 - 情報工学(○○領域)では当たり前に使われている言葉に注意. ○○領域(情報工学)側の査読者が読めない論文にならないように.
- 境界領域論文は査読に手間がかかることを念頭に置くべし
 - サーベイは十分にすべし
 - 技術の限界は明示すべし
 - 想定される議論はなるべく多く広く記載すべし
 - 重要な議論は筆者がすべし

境界論文は書くべし

- **需要**がある
 - 客観的データがあるわけではありませんが :-)
 - 領域の研究者は情報処理技術とのコラボで何が起きるのかを知りたがっている. Cf.医療情報学
- **速報性が高い**と判断される可能性が高い
 - 実は重要な採録基準
 - 会員に有益な情報を迅速に提供することが論文誌の役割. 需要が高い論文 = 有益 = 速報すべし
- **ブルーオーシャン!**?
 - 両方の領域に向けてメッセージ発信するのは手間がかかる = 良い論文がなかなか出てこない

論文誌への奮っての御投稿
お待ちしております

m(._.)m